

## 「忠犬ハチ公」から想うこと

校長 田邊 泰

我が家で、子どもの教育のために、犬を飼い始めて、この11月末で22年目となりました。現在は3代目（ロッキー）と4代目（スフレ…繁殖犬）を飼っています。先日、スフレが産んだ犬を飼っている飼い主さんたちが、「スフレママ」のために、「親子会」を開いてくれました。犬たちにとっても、飼い主であるみんなにとっても、楽しい時間となりました。



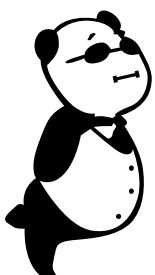
ところで、日本で一番有名な犬は？と言われて皆さんはどの犬を思い浮かべますか？CMに登場する白い北海道犬の白戸家の「お父さん犬」という人もいるでしょうし、南極で生き抜いた樺太犬の「タロ」「ジロ」という人もいるでしょう。しかし、私の場合は断然「忠犬ハチ公」です。

ハチ公が、本当に忠犬だったのかどうか？については、様々あるようです。例えば、「ヤキトリが目当てで渋谷駅に行っていたらしい。」という人もいます。実際ハチ公は、焼き鳥が好きで、有名になってからは見物客から焼き鳥をもらって食べていたようですが。

しかし、大切なことは、犬と人間との間に結ばれた絆ではないかと、私は、思います。だから、何のためにハチ公が待っていたのかが問題ではなく、どれほどハチ公と上野先生の絆が深かったか、ということではないでしょうか。

上野先生は、ハチ公をお風呂に入れたり、一緒に寝たり、一緒に食事をしたり、たいそうかわいがったそうです。ハチ公も、上野先生のことを大好きだったに違いありません。それは確かなことではなかったかと、私は思っています。

そして、犬が、飼い主を慕うのは、ハチ公だけではないとも思っています。どんな犬でも飼い主が愛情をもって接していれば、第二の「ハチ公」になるのではないかと考えているのです。犬にとって最も幸せなことは、愛情をかけてくれる飼い主がいつもそばにいてくれることであり、自分を認めてくれる飼い主と共に暮らせることではないでしょうか。



**犬と、子どもの教育を単純に同じ土俵で考えることはできないと思いますが、これまでの自分の子育てを振り返ったり、教師としての様々な経験を思い起こすと、子育ての大原則もここ（子どもも愛情をかけてくれる大人〈家族や教職員といった〉が身近にたくさんいることで大きく成長していく。）にあるような気がします。当たり前と言われれば、当たり前のことですが。**